

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194800064		
法人名	医療法人彩清会 清水病院		
事業所名	グループホーム梅こよみ		
所在地	埼玉県秩父郡皆野町大字国神854-6		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 18 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 4 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 6 年 2 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・パーソンセンタードケアを行うことを事業所として掲げており、入居者・家族・職員を「人として」尊重するよう心掛けている。 ・グループホーム内で共用型の認知症専門デイサービスを行っており、認知症の方を自宅で見ている家族の負担軽減や、困りごとなどの相談依頼があった際は支援を行っている。 ・同法人の病院から定期的に医師・看護師・理学療法士・言語聴覚士など多職種との訪問があり、入居者の健康面で専門職に相談できる環境である。 ・日常生活の中で色々と入居者と一緒に行きながら行っており、その人の役割に繋がっている。 ・その人が持っている能力を最大限に活かし、気持ちに寄り添ったケアを行うよう取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設当初より、パーソンセンタードケアを取り入れ利用者の立場に立って考え支援をおこなっている。会話時に視線をあわせる、立ち上がり時さりげなく支えるなど基本を忠実にこなされている。経営母体が、医療法人にて医療職、リハビリ職との連携が密であり、様々な援助が受けられる。事業所内で、複数の診療科目が受けられ、重度化時も病院との連携ができています。理学療法士、言語聴覚士の訪問があり専門的な機能訓練を受けることが可能である。玄関前にはシンボルツリーとして梅の木が植えられている。観梅したり、ジュースにしたり、梅干しにしたりと季節ごとに楽しんでいる。事業所内で猫を飼育しており、アイドル的存在となっている。フリーWi-Fiがひかれており、携帯電話や情報端末器を利用している人もいます。事業所の日常をSNSを通じて家族をはじめ多くの人に発信している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	パーソンセンタードケアの実施を目標とし、法人理念の『みんなの笑顔のために』を心掛け各職員が日々ケアを行っている。又、毎朝朝礼時に『心得6訓』の中からその日のテーマを決め一日実践している。	理念として「心得6訓」を玄関に掲示し、朝礼もその場で行われ唱和している。その中から、今日の重点を一つ定め、その日は特に意識するようにしている。パーソンセンタードケアを採用し利用者中心の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域との日常的な交流は減っているが、散歩に出かけた際に近隣住民に挨拶をしたり談話を行っており、お花を頂いたこともある。	散歩中挨拶を交わしている。近隣宅の花壇を見学に行き植物談義を交わしている。従前は、多くの演芸ボランティアの来訪があったが、今年度はビオラとピアノによるミニコンサートが開かれ楽しいひと時を過ごした。	コロナ禍で地域との交流が後退した一面が見られる。地域の行事、事業所のイベント等を通じて地域交流の深化を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム内で共用型の認知症専門デイサービスを行っており、家族の負担軽減や、困りごと等の相談支援を行なっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが5類になったが、昨年の7月～11月にかけて入居者・職員の複数名が感染したこともあり、施設内での開催は休止している記録のみ配布している。	コロナ禍により書面会議で対応している。入居状況、活動報告、事故報告等をまとめ行政に報告している。活動報告では、イベント時の写真も添付し詳細な報告をおこなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年2回開催される地域包括ケア会議に参加したり、地域の催し物などで包括の職員とも顔をあわせる機会が多く、いつでも相談できる関係性にある。	届出事項や相談等で行政と連携している。行政、地域包括支援センターとは、各種会合で顔をあわせている。地域ケア会議に参加し地域課題に取り組んでいる。高齢者福祉計画策定委員としても行政に関わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてカンファレンスや勉強会を通して共通認識を持ち、職員同士で声をかけ合って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。防犯上の玄関の施錠はしているが、日中は施錠しておらず自由に出入りできる。	定期的に研修をおこなっている。欠席者には、資料配布している。本部から資料が届くこともあり全員に配布確認している。声掛けにも注意し、管理者から注意したり場合によっては本部から注意することもある。玄関は解錠しており、外出希望の方には適宜対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人が入浴やトイレ介助、移乗時など普段の業務の中で入居者の観察を行っており、職員間で声掛けしながら虐待には細心の注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスや勉強会以外で学ぶ機会は少ないが、以前に後見人がいる入居者がいたことがある。外部研修などに参加して理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時に十分な時間を設けて、内容説明や要望、不安や疑問点について丁寧にお答えしている。 契約時にも改めて十分な説明を行い、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し記入方法もアンケート式にし記入しやすいよう工夫している。 家族から意見や要望があった際は職員間で共有し運営の改善に役立てている。	面会や電話時に意見を聴いている。意見箱も設置しており、 <input checked="" type="checkbox"/> で簡単に記入できるようにしている。意見、要望については、職員間で共有し可能な限り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との普段の会話の中で意見を気軽にあげられるよう良い関係性を築いている。 あげられた意見はカンファレンスなどで議題に出し職員間で共有している。	職員会議で意見を聴いている。欠席者には鍵付き意見箱に投書してもらっている。年2回個別面談であらためて意見を聴いている。 普段から言い易い環境を大事にしている。行事やイベントは、職員が企画運営している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員との個別面談の実施や、年2回賞与シートの記入を行い各職員の取り組みが経営者まで伝わるようになっている。 有給休暇取得の推奨、必要な残業申請の推奨、制服の貸与を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症についての研修やPT、OT、STなど法人内のリハ種と連携し、専門的な知識を学べる環境を作り、参加を促している。 該当職員には実践者研修や国家資格取得に向けて研修案内をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響もあり他事業所との交流は少ないが、法人内で介護の役職者同士が集まり、各部署の情報交換を月に1回行っていて、サービスの質向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は本人の話を傾聴し不安を軽減しながら良い信頼関係を築くよう努力している。普段の会話など生活の中でのやりとりを職員間で共有しケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族も入居者同様に不安や心配を抱えている事を理解し、要望に応じて適切な支援ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活パターンを大事にし、今なにが必要かを見極め必要としているサービスを職員間で共有し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人が今できる事に目を向け、任せきりにするのではなく職員と一緒に楽しみながら行っている。 (おやつ作り、洗濯物たたみ、掃除、行事用飾りなど)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	場所は限られてしまうがコロナ禍でもいつでも対面で面会ができ、家族に喜ばれている。月に1回写真付きのお手紙を送り、日々の様子など近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	場所は限られてしまうがコロナ禍でもいつでも対面で面会ができています。 本人が昔からの友人や知人に手紙を書いた際は郵便局に持って行っている。	家族や友人の来訪がある。面会・外出の希望通り可能である。手紙や電話の取次ぎをしている。絵手紙を作成し文通している人や携帯電話で連絡している人もいる。地元では有名で馴染みの神社に初詣に出掛けた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや生活リハなどと一緒に取り組んで頂く事で顔馴染みになり、交流の機会が持てている。 職員と一緒にお茶を飲んだり、日頃の様子を見て席替えなども検討することがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の親戚から入所希望の連絡があり、再び繋がりをもつことができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時家族や本人の意向を聞き、プランに反映している。 日々のケアの中で会話などで得た情報を記録し職員間で共有している。	生活歴や家族情報等より意向を汲み上げている。日常会話や言動からも汲み取り、収集した情報は、職員間SNSで共有している。表現の難しい人には、表情や動作から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に話を聞いたり、生活歴を把握し生活しやすい環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースで過ごして頂き、朝礼で夜間の様子を申し送りしている。 毎朝バイタルチェックを行っている。 職員間で気付いた事は記録し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態が日々変わっていく中で定期的に見直し、本人や家族、担当職員に意見を聞き、現状に即した計画を作成している。	「近くの神社へお参りにいく。」「畑仕事をする。」「立ち上がり訓練を行う。」など具体的な計画を作成、担当者を中心に達成状況を確認し意見を聞いて見直している。可能な限り本人から同意署名を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やグループラインで情報共有している。 特別な事があった際はケース記録に記入し、計画に見直しが必要な場合はカンファレンスや担当者会議で意見聞き見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて柔軟な支援を心掛けている。 法人内の多職種にも相談できる環境にあり、本人に合ったサービスを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の安全を優先し、現状の中で楽しく穏やかに過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。 清水病院が主治医の方は月に2回院長先生の往診があり健康状態を診て頂いている。	かかりつけ医、提携医との選択は可能である。提携内科医の訪問が月2回、その他必要に応じ整形、皮膚、耳鼻等の訪問診療もある。リハビリ職が訪問し歩行訓練や嚥下訓練等行われている。看護師の定期訪問もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に状態変化があった際、法人内の看護師にいつでも相談できる体制ができており、必要に応じて受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の地域連携室と密な情報共有を行い、できる限り早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当事業所の終末期の在り方や方針、延命治療希望の有無などを本人、家族に十分説明をし承諾を得ている。 必要に応じて医師、家族、管理者で話し合いの場を設け、今後の対応を相談している。	入居時に、重要事項説明書や指針を基に説明している。可能な限り事業所での生活を継続できるよう支援しているが、食事が摂取できなくなったり、血圧が異常低下、医療処置が必要とした場合など医師を含め家族と今後の方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練を行ったり消火器の使い方など定期的に確認している。 AEDの使い方や人工呼吸、心臓マッサージの方法などの指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害計画書に沿って行動する事になっている。 災害時の対応、備えを全職員で確認し市町村からの助言や協働して災害対応能力の向上に努めていく。	年2回避難訓練を行い、消火器、通報、AED訓練等も行われている。平屋建てにて複数の避難経路が確保されている。ハザードマップや避難場所、地域の防災倉庫等の確認をしている。法人として備蓄は整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の気持ちに寄り添い、優しく落ち着いた声掛けを心掛け笑顔で接している。介助時にはトイレや居室の戸を閉め、プライバシーにも配慮している。	個人情報ファイルは、書架にて施錠保管している。申し送りは、イニシャルを使用、トイレにあるオムツ類には、ローマ字等で記名している。トイレや入浴支援時には、必要以上は距離をとりプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定しやすいように簡単な単語、質問を用いるなど声掛けに工夫している。日常生活の中で普段から話しやすい関係性作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者のペースに合わせて、その人の希望や想いを尊重しながら、できることを一緒に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人が選んでいる。起床時には髪の毛をとかしたり、男性の方は髭剃りを行い身だしなみを整えている。定期的に訪問床屋が来て希望者は散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みそ汁の具やおやつは職員と一緒に作ることもある。食器洗い、食器拭きなどは入居者が行っており、その人の役割にもなっている。	台所とフロアに仕切りはなく、音やにおいが五感を刺激している。包丁で野菜を切る、食器拭きをする等を手伝う人がいる。お好み焼きやデザート等おやつ作りも行われている。焼きサンマや寿司バイキングは好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の状態にあった形態で食事を提供し、毎食の摂取量を記録している。アレルギーがある方には別の物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導にて口腔ケアを実施している。歯ブラシなどは毎日消毒し、定期的に交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	家族の負担も考慮しつつ、本人の残存機能を活かす為、おむつは極力使用しないでトイレで排泄するよう協力しながら支援している。	チェック表を用いて誘導している。夜間は、離床センサー等活用し誘導している。トイレでの排泄を心掛け、リハビリパンツやパッドの使用量削減に努めている。トイレ入り口の表示を大きくし判別しやすいようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分や牛乳の摂取を促したり、適度な運動や腹部のマッサージを勧めている。 なるべく下剤に頼らないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者のその日の体調や気分に合わせて時間や曜日をずらすなど柔軟な対応しており、週2回は入浴できている。	週2回の入浴である。普通浴と特殊浴があり状況に応じ対応している。同性介助にも対応している。浴室は、「梅の湯」の看板を掲げ、ゆず湯や檜玉を使用したヒノキ風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンを尊重し、入居者の身体の負担を軽減するよう支援している。 夜間安眠できるように日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬する目的や内容、種類など把握できるよう努めている。 新しい薬が出た場合、記録をとり状態変化や気付いた事を職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭で取れた梅でジュースを作ったり、サツマイモで干し芋を作るなど普段とは違うことで楽しみながら一緒に行った。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の外出ドライブや行事を行っている。 希望があった際は買い物や散歩に同行し気分転換が図れるよう支援している。 家族の希望で一時的に外出することもある。	天気の良い日には散歩に出ている。希望があれば、服や日用品の買い出しに出かけている。毎月、ドライブに出かけている。近隣の梅や桜の名所、棚田、ダム湖と季節にあわせ職員がアイデアを出し合い行っている。家族と食事に外出する人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は所持していて、週1回来るヤクルトで好きな物を購入している。希望の物を職員が買って来たり、本人を連れて一緒に買い物に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった際はいつでも家族に電話をかけたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に行事やドライブに行った際の写真を飾り、会話のネタになっている。共用空間は安心・安全に配慮し衛生面でも気をつけている。	壁には、季節にあわせた作品や、行事・外出時の写真が貼られている。正月には、大きな鳥居や賽銭箱を利用者と制作した。廊下の手すりですクワットをしている人や掃除を手伝う人もいる。ソファやベンチが配置され、利用者同士の程よい距離が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子やソファを置き入居者同士が交流できる場になっている。外玄関にはベンチがあり、景色を眺めたりひなたぼっこをして楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やお茶碗、テレビなど使い慣れたものが多々あり、本人が快適に生活できるようになっている。必要な物があれば家族に連絡し持参して頂いている。	エアコン、ベッド、カーテンは備え付けで、使い慣れた家具を持ち込んでいる。皇室写真や最頂のスポーツ選手のポスターを貼っている人もいる。お好きなテレビ番組を観たり、週刊誌を読むなどして居室でくつろいでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名前を貼って自分の部屋だと認識しやすいようにしている。トイレや浴室などの共有スペースにも大きな字でわかりやすく表示している。		